

## 令和4年度第5回立川市生涯学習推進審議会 会議録

開催日時 令和4年11月30日（水曜日） 午後6時30分～午後8時20分

開催場所 立川市女性総合センター（AIM）5階第2学習室

出席者 [委員] 倉持 伸江 会長 檜崎 茂彌 副会長 大槇 正則 委員

柴 香里 委員 菅山 明美 委員 梅田 茂之 委員

竹内 英子 委員 難波 敦子 委員 宮本 直樹 委員

岩元 喜代子 委員 杉浦 早苗 委員

[事務局] 立川市生涯学習推進センター長 庄司 康洋

同 管理係長 新藤 博

同 管理係員 大須賀 雄大（記）

傍聴 0名

次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 報告事項
  - (1) たちかわ市民交流大学企画運営委員会の会議録について
  - (2) 令和3～6年度たちかわ市民交流大学事業方針について
4. 協議事項
  - (1) 令和4年度第4回立川市生涯学習推進審議会 会議録について
  - (2) 立川市第6次生涯学習推進計画 令和3年度取組状況の進捗評価について
  - (3) 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2ブロック研修会の振り返りにについて
5. その他
  - (1) 眞壁委員の退任について

配付資料

1. 令和4年度第2回たちかわ市民交流大学企画運営委員会議事概要
2. 令和3～6年度たちかわ市民交流大学事業方針について
3. 令和4年度第4回立川市生涯学習推進審議会 会議録（案）
4. 立川市第6次生涯学習推進計画 令和3年度取組状況の進捗評価表（令和4年度実施）
5. 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2ブロック研修会アンケート結果

会議内容

1. 開会
2. 会長挨拶

### 3. 報告事項

(1) たちかわ市民交流大学企画運営委員会の会議録について

(会 長) A委員より説明をお願いします。

(A委員) お手元の資料1です。「議事概要(案)」となっておりますが、確認が済んでおりますので、現在では案ではなく確定版となっております。内容については、お時間に限りがございますので、詳細につきまして後日ご一読いただければと思います。「4 報告」につきましてはいつも通り情報交換を行い共有をいたしました。6ページまでめくっていただき「5 議事」につきましては、「令和3年度のたちかわ市民交流大学事業方針(まとめ)について」です。昨年度の事業の進捗結果について評価を行ったものとなります。こちらは資料2でお配りしておりますので後ほどご説明いたします。8ページ、「5(2)」となりますが、こちらは今年度の事業の進捗状況の報告を受けて確認を行っております。議事概要については以上となります。

(会 長) ありがとうございます。なにかご質問等ございますでしょうか。

(B委員) 7ページの上から3分の1くらいのところに「地域学校協働本部事業がまだ定着していないと思う」とあって、地域学校コーディネーターの話も出てくるのですが、この間の第2ブロック研修会や西砂学習館で行った交流会でも地域学校コーディネーターと地域学習館との関わりがクローズアップされていたのですが、たちかわ市民交流大学の立場としてはどのようなお話が出ているのでしょうか。

(A委員) たちかわ市民交流大学と直接的に関わりはなく、立川市全体の話の中で間接的に話題に上がっていると考えていただければと思います。講座運営などの中で地域学校コーディネーターが登場するという事はないです。

(B委員) そこまでの深い関わりはないということですね。ありがとうございます。

(会 長) ありがとうございます。他に何かございますでしょうか。

(副会長) 中々厳しいことも書かれていますね。7, 8ページで実態が見えないといったことが書かれていて、この前の学習館の交流会でも同じ話が出ました。どうしてこのことがずっと続いているのか不思議に思うところがあるのですが、どのように捉えるべきなのでしょう。

(事務局・センター長) 5ページのところに取組事項6として「学校教育関係者と社会教育関係者の交流」という項目がございます。その中に「事務局は社会教育資源である講座事業について、地域学校コーディネーター及び学校に情報提供し、「学社一体」の取り組みを進める」という風に取り上げている事項なのですが、足りていないというご指摘かと思います。近々校長会がありますので、こういったことはご報告させていただこうかと思えます。

(会 長) ありがとうございます。他によろしいでしょうか。(なし)

(2) 令和3~6年度たちかわ市民交流大学事業方針について

(会 長) A委員よりご説明をお願いします。

(A委員) 資料2の令和3~6年度のたちかわ市民交流大学の事業方針となっております、令和2年度に作成したものとなります。令和3年から6年の4ヵ年計画となっております。

おりまして、生涯学習推進計画と合わせました。生涯学習推進計画の中からたちかわ市民交流大学と密接になっているものから切り出してきているという立て付けだと思っていただければと思います。3 ページ目をご覧くださいと、取組事項と具体策とあって、こちらは計画段階で立てたものとなります。令和 3 年度のまとめとして追記しているのが取組み状況となります。4 つ目の項目として成果と課題というのは、取組み状況の結果、このような成果や課題がありましたということを追記しております。以下、このような構成となっています。地域学校コーディネーターの話は取組事項 6 でできます。市民交流大学との関わりとしては間接的で、交流大学の講座というよりは学習館や地運協の話になってくるので、密接に関わりがあるということで取り上げさせていただいております。

(会 長) ありがとうございます。ご質問やご意見等ございますでしょうか。

(C 委員) 地域学校コーディネーターというのは地域学校協働本部を作って、そこで活動をされる方ということで文科省と同じという認識でよろしいでしょうか。

(事務局・センター長) はい。

(C 委員) その方の研修を担当されるのはどこになるのでしょうか。

(事務局・センター長) 統括コーディネーターという方をお二人お願いして、この間の交流会を実施しました。研修については、今後は考えていかないといけないと考えております。

(C 委員) 統括コーディネーターはエリアによって分かれていますか。

(事務局・センター長) 一人は立川市民の方で、もう一方は学識の先生にお願いしていますのでエリアでという分け方はしていません。

(C 委員) 機能で分かれていますのですね。こういった方々が市民交流大学に関わるというのは、地域の方に学校に入っていただくためのプロモーターのような役割ということなのでしょうか。

(事務局・センター長) おっしゃるとおりでございます。コーディネーターの方のコーディネートをするという位置づけでございます。

(C 委員) コーディネーターの方はそれぞれの地域で活動を始められているということですよ。

(事務局・センター長) そうです。コーディネーターの方も自分の役割が不明確なまま引き受けてしまっている部分がありますので、そういう方にどういう関わりを持っていただくかということと共有していただくために交流会や研修等を今後実施していきたいと考えております。

(C 委員) この方々は学校教育のカリキュラムなどの事前研修を受けてやられているのですか。

(事務局・センター長) そういった方のほうが少ないかもしれません。PTAの副会長をやられていた方や地域で商売されていた方だとか、学校との関わりがある方ではあるのですが、実際の学校のプログラムだとかの教育を受けている人は少ないかと思えます。

(C 委員) 新宿区でもスクールコーディネーターというのを平成 16 年の頃からやっているのですが、地域の方がやられていて、なられたら指導主事から直接講習を受けて

学校教育について十分理解していただくということを行っています。人権感覚などについても年に 2 回ほど行ってから入っていただくようにしています。関わるものの心得とかを指導主事から伝えていただく効果的なようです。

(事務局・センター長) 統括コーディネーターは学校教育をされている方ですので、説明することはできます。ただし、コーディネーターの方になるとそれほどいらっしゃらないということになります。

(C 委員) 基礎知識さえあれば市民の方でも十分できると思います。

(会 長) ありがとうございます。他にご質問等ございますでしょうか。(なし) A 委員がおっしゃったように生涯学習推進計画をより具体化した事業ということで、コンパクトにまとめていただいているのを見ると非常に参考になる資料だと思います。市民交流大学で出ている話と学習館の交流会で出ている話と生涯審で出ている話で、課題となっているところは通じているということがわかりました。

#### 4. 協議事項

(1) 令和 4 年度第 4 回立川市生涯学習推進審議会 会議録(案)について

(会 長) 事務局より説明をお願いします。

(事務局・管理係長) 資料 3 です。事前に確認をお願いしておりますが、修正意見はございませんでした。この会議が終わるまでにご意見がなければご承認いただけたということで速やかにホームページに公開させていただきます。

(会 長) ありがとうございます。お気づきの点や修正点はございますか。

(B 委員) 7 ページの下から 8 行目、アルファベットが D ではなく C だと思います。それと 9 ページ上から 4 行目、「送信が 5MG」となっていますが「5MB」ではないでしょうか。

(事務局・管理係員) 失礼いたしました。修正します。

(会長) 他にございますか。(なし)

(2) 立川市第 6 次生涯学習推進計画 令和 3 年度取組状況の進捗評価について

(会 長) 事務局より説明をお願いします。

(事務局・管理係長) 資料 4 です。前回の 10 月 11 日の会議で、評価部会で作成した進捗評価表をご提示しました。各自修正ご意見等があればご提出をしていただくこととなっていました。そのご意見をもとに 10 月 27 日に第 3 回評価部会で調整したものをメールでご確認いただくことになっておりましたが、修正意見がございませんでしたので、本日もご提示しているのが完成版の直前のものとなります。この後、皆様にご確認いただき、問題ないようでしたら本日をもって「完成版」とさせていただきます。前回倉持会長にすべて読んでいただいてご確認いただきましたが、今回は 10 ページの学習相談の体制の部分が大幅に修正しております。そのあたりを中心に確認していただいて完成させていただければと思います。

(会 長) ご説明にあったとおり、他のところは軽微な修正とお伺いしていて、大きく修正したのが 10 ページの「Ⅱ-1-③」ということなので、読み上げさせていただいてそれ以外は読む時間を設けますのでご確認いただければと思います。10 ページ

ジの「Ⅱ-1-③」の総評の部分です。『地域学習館が行う相談窓口は ～中略～ 実施するなどの工夫が求められます。』となっております。いかがでしょうか。(なし) 評価委員からこの項目は事前に確認した方がいいというところがあるでしょうか。(なし) それでは、時間をとりますので項目の最初から目を通していただいて、ご意見や質問等があればお伝えいただければと思います。それではご確認ください。(以後、確認時間)

(副会長) A B Cの評価って検討していないですよ。これは昨年のものがついているということでしょうか。

(会 長) 事務局の自己評価がついているということですよ。

(事務局・管理係員) 作成いただいた総評を読ませていただいた上で、事務局で評価している部分です。結果としては昨年度と同様の形になっています。

(副会長) ここでは諮っていませんよね。

(会 長) ここで決めるものではないという意味ですよ。この場では総評だけを出すことになっています。

(副会長) わかりました。

(会 長) 他にどこかございますか。

(D委員) 脱字なのですが、16 ページの 1 行目「スマートフォン」になっているので「スマートフォン」が正しいかと思います。

(会 長) ありがとうございます。

(B委員) 表記の話なのですが、8 ページに「ユーチューブ」と出てくるのですが、SNS の名称は正しく記載した方がいいのではないかと思います。

(事務局・管理係員) 評価部会でも話題に出たのですが、立川市が計画を作ったときにカタカナ書きをしてしまっているのが、評価の方もカタカナ書きにさせてもらいました。本来であれば正式にアルファベットで記載するべきかと思ったのですが、ズレがないようにカタカナにさせていただいています。

(会 長) ありがとうございます。他にありませんか。(なし) それでは私から、12 ページの「Ⅲ-1-②」で段落が三つあって、一つ目が地域学校コーディネーターで二つ目が子育て世代のパパの話があって、三つ目が地域の担い手を多様な人という話なのですが、子育てパパの話が急に間に入ってきたなという印象があって、順番を変えてみたらどうかと思いました。中身はこのままでいいと思います。

(副会長) 子育て中のパパの講座は一つの例として挙げているから、そこまでおかしくないような気がします。

(会 長) では、「また、」の方の段落を先にして、「将来世代を育むために」の段落を後にするのはどうでしょうか。そうすると例示っぽくなるかと思います。よろしいでしょうか。中身の意図はより伝わりやすくなるかと思います。他に何かお気づきの点はあるでしょうか。

(E委員) 最初に話題に上がった 10 ページの相談体制のところなのですが、2 段落目の「足を運ぶことができなかつた方などに向けて」の部分が、これから先を意識して「できない方などに向けて」の方が自然かと思います。

(会 長) 過去だけではなくこれからも含めてという意味ですね。前後の文脈からも「で

きない方」で意味も通じるので、よろしいでしょうか。それでは「できなかった」を「できない」に変えます。他になにかございますでしょうか。(なし) 本日、いくつか訂正がありましたので、それを反映していただくという前提で進捗評価表について完成版としてご承認いただくということでよろしいでしょうか。(同意) ありがとうございます。こちらをご提出するというのでよろしくお願ひします。今回、評価の仕方を変えまして、評価委員の皆様にはご負担をおかけしてしまったのですが、やり方について振り返るということで、事務局からお願ひします。

(事務局・管理係長) 一旦は本日をもって進捗評価が終了となります。会長のおっしゃったとおり、進捗評価を大きく変更させていただきましたので、前回もお聞きしていますがやり方がどうだったかと来年度もこのやり方が継続できそうか、皆様からご感想をいただければと思います。ご意見を基に事務局の方で改めて検討したいと思いますので、よろしくお願ひします。

(会長) 今年から委員になられた方はこのやり方がすべてだと思いますのでどうだったかというご感想と、継続で委員をされている方は違いを体験されているのでどうかというところと、評価委員の方は当事者としてどうかというところをお聞きして、来年度の見通しを立てたいというところですか。結論を出すということではなく、ご意見ご感想をいただければと思います。いかがでしょうか。評価委員の方からまずはいただければと思います。D委員からお願ひします。

(D委員) 私にとっては今年のやり方がすべてなのですが、事務局にまとめていただいたのは少し申し訳なかったという思いがあります。すべての項目を確認させていただいて、皆様のご意見を網羅していただいたので、これをできる方がいらっしやったということが大きいのではないかとということと、皆様からご意見をいただくということが基になって、お忙しい中ご提出いただいた方には感謝しつつ、もっと多くのご意見があればよかったですと思います。このやり方を継続するという前提であれば、来年度も多くの意見を出していただいて、きちんとまとめていただくことができれば、いいやり方だったのではないかと思います。3人で話し合っている中にも思いの中に偏りがあって、難しさもあったと思いますし、私も初めてで申し訳なかったのですが、いい経験をさせていただきました。ありがとうございました。

(会長) ありがとうございます。A委員お願ひします。

(A委員) 結論から申しますと前のやり方よりも今回のやり方のほうがよかったですと思います。ぜひ、来年度も継続していただくのがいいのではないかと思います。前回も途中経過で感想を申し上げましたが、3つの立場があったかと思っています。事前に委員さんから意見を出したという委員全体の立場、その意見を統合する作業をしていただいた事務局の立場、そして評価委員がよく吟味して判断して調整に関わったという立場がありました。それぞれがそれぞれの立場で役割を果たしたのではないかと思います。まずは多様な角度からいろいろな意見をみんなですすという前回までの良さは今回も残せたと思います。今回事務局ですすめた作業を今までは我々がやっていて、事務局同様、我々もできていたと思います。ただし、いろいろな人でやっているの最後の細かいところで調整しようとしたので七転八

倒した感じがしていました。その中心を会長と副会長が担って、効率が悪い部分を引き受けていただいていたのですが、今回は一人の人がまとめたので、最後の仕上げの部分がきれいになったと思います。そこは一人の人が書いた方が書きっぷりが統一されていいと思います。来年度に向けて、問題意識としてもっていかないといけないのは、D委員もおっしゃっておられましたが、委員全体がモチベーション高く保って、より多くの意見を書くというのが来年も必要ですし、二つ目にあげた事務局が代わって、後任の人が同じことができるのかということも大きいと思います。評価委員も毎年同じ人がするのもどうかというところがありますし、事前に読み込んで、集まって話し合っていることをしているので、それなりの労力がかかっているのに、担っていただける方がいるかという持続可能な仕組みなのかということが注意点かと思います。そこがクリアできれば、このやり方はとてもいいかと思います。

(会長) ありがとうございます。副会長お願いします。

(副会長) 評価委員3人で話したときに、評価委員でまとめるのか、事務局でまとめるのがいいかというところで議論がありました。私は生涯審が出す評価なので、事務局に作ってもらうのはどうなのだろうと思っていたのですが、結果としてはとてもうまくまとめていただいたと思います。先ほどもありましたが、事務局が代わって、行政としてここはできないということが起こってしまう可能性があるのは気になるところです。それと皆さんにとにかく意見を出していただくことが大事だと思います。一人の方が多く意見を出すこともそうですが、より多くの人が意見を出すことで意向が生きてくるということになると思います。前回までのやり方よりも今年のやり方のほうが私の立場からしてもよかったと思います。まとめると作業がなくなったというところで皆さんの負担も減ったこともよかったと思います。

(会長) ありがとうございます。評価委員のみなさんからのご意見が重なっている部分があったので、ポイントが見えてきたかと思います。いい意味で条件が重なったと思いますし、まとめている段階で相反する意見があっても、的を絞って議論できるというのはよかったかと思います。まとめていただいた事務局の大須賀さんからも課題や感想をいただけますか。

(事務局・管理係員) いろいろとお褒めの言葉をいただきありがとうございます。ただし、私ではない誰かがまとめたとしても、評価委員をされたお三方が細かく見ていただいて、ご意見をしっかり出していただいたので、同じクオリティのものに仕上げることができるのではないかと考えています。全体的なバランスはあると思うのですが、来年度もできると思いますし、評価部会3回集まった中で、うち1回はどうやってやるかを議論に費やした部分があるので、今年のやり方と一緒にいうことであれば、集まる回数を2回にすることもできると思います。評価委員になれる方のご負担も減るということになれば、来年度も実施できるのではないかとと思います。

(会長) 事務局でまとめたものを評価委員さんがしっかり確認しながら議論をするというところも大事だったということですね。ありがとうございます。

(B委員) 過去に何回も評価をさせていただきましたけれども、一人ひとりにコメントのまとめを任されていたというところで、表現の揺れが気になっていたというところが実はありました。どうしても個性があるのでまとめられるものでもなかったのが、今回はそこをきれいにまとめていただいたので、とても読みやすいものになったと思います。ありがとうございます。

(会長) ありがとうございます。皆さんから意見を出して、事務局でまとめて、それを評価委員が調整して、審議会でそれを確認して、また出された意見を調整して、最後に審議会で確認するという流れなので、手続きは踏めていますね。前提となる部分はあって、今年うまく回ったけど来年度以降はという部分は確かにありそうですね。今日出たポイントをまとめておいていただいて、次年度に機能するかどうかご検討いただければと思います。この評価が行政に渡った後もしっかり事業に活かされていくというのが本来の目的ですけれども、スピード感が上がったというのも評価としてはよかったかと思います。

(事務局・センター長) 作業ありがとうございます。我々としては PDCA サイクルの観点からすると、いただいた総評のところに関しまして、アクションをしていかないといけない立場かと思っています。今までここが評価するだけに留まっていた部分もございまして、検討の結果を見える化してこなかったものですから、どのように動いているかということを見せるような形で考えていきたいと思っています。例えば、この評価表に昨年度の指摘を入れ込んで、それがどうだったかというのを PDCA サイクル観点で回していくような仕掛けを考えていきたいと思っています。いずれにしましても総評でいただいたご指摘部分を、取り組めるものから取り組んでいきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

(会長) ありがとうございます。単年度だと評価している段階で次の年度は始まっているので、すぐに活かすというのは難しいかもしれないのですが、5ヵ年計画自体がどうだったかという長期スパンの目線での評価を先ほどセンター長がおっしゃっていた中に入れ込む工夫はできるのではないかと思います。

(3) 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2ブロック研修会の振り返りについて

(会長) 事務局より説明をお願いします。

(事務局・管理係長) 資料5としていくつかの資料を配布しています。資料5と書いてあるのがアンケート結果です。二つ目がA4横の当日に使用した記録用紙になります。三つ目が12月10日に開催予定の交流大会の発表用資料となります。一つ目はアンケート結果です。各項目ごとにご意見をまとめました。基本的には書かれている文言をそのまま記載してありますが、ほぼ同一の意見については「他〇件」とまとめさせていただきました。全体的なおおむね好評という内容をいただけたと思っております。二つ目の記録用紙ですが、この後、振り返りとして当日に発表しきれなかったお話などあれば、皆さんで共有できればと考えております。当日話し合いが盛り上がり、発表の時間は長くとれなかったものですから共有できればと思っております。ここに書かれている内容の正確性は不明なので、本日の会



議のみでご使用いただく参考資料とさせていただきます。三つ目は交流大会の発表で使用するパワーポイント資料です。倉持会長にもご協力いただきながら作成しました。交流大会では各ブロック幹事市が研修会の概要を説明することになっているので、研修会企画のプロセスから当日の内容や感想なども含まれています。発表は倉持会長にお願いしたいと思いますので、改めてよろしくお願ひいたします。本日の振り返りは、当日の情報共有・意見交換で出てきた話題で、まとめの時間に発表されなかったものやそれ以外で気づいた点や感想などを共有させていただければと思います。また、幹事市ということで、企画・運営に関してのご意見や感想もあわせてお聞かせ願ひたいと思います。

(会 長) ありがとうございます。振り返ってみるとこの企画に1年くらいかけて取り組んできたわけですが、10月29日に実施しまして、その結果に関する資料をご提示いただきました。当日ご参加いただいた委員さん、グループで話し合ったことでもいいですし、運営してみてもいいですし、企画そのものでもご意見ご感想をいただければと思います。いかがでしょうか。

(B委員) 第1部の小町さんの後にプレゼンのお手伝いをさせていただきましたけれども、みなさん時間配分をしっかりと守っていただいて、改めてこの場で感謝を述べさせていただきます。ありがとうございます。

(会 長) ほぼ予定どおりでしたね。グループでの話し合いが盛り上がってしまって、長めに変更したというのはありましたが時間通りに終わらせることができました。

(D委員) 私は第1グループだったのですが、東大和市の方と武蔵村山市の方が資料をご用意いただいていて平和のつどいだったり、モンゴルの講座だったり、資料を持ってきていただくことを事前に連絡したのは、わかりやすく進行もしやすかったのよかったですと思います。

(会 長) いくつかの市が事前に資料をご提供いただいていたのはよかったですね。見ながら話をできるので具体的で把握しやすいですね。

(F委員) 私は5グループだったのですが、活発に議論できたのは題材がよかったですのではないかと思います。時間も守りながら、G委員が司会をしてくださったのですが、話を引き出しながら楽しく議論することができました。

(会 長) ありがとうございます。時間いっぱい話をされていたということですね。

(G委員) 時間が若干足りない気はしました。話は盛り上がってよかったですと思います。気になったのは、公民館便りが昭島市や東大和市では定期的に発行されているという話がありまして、立川市では学習館便りは発行されているのかどうか。きらり・たちかわのような講座の情報は出ていますが、うまく表現できないのですが、発行している西砂元氣通信では西砂学習館運営協議会の役割を広く知ってもらうために考えていることを載せるようにしています。学習館が主体で便りを出していたら、紙面の一部を地運協便りとして情報提供することもできるのではないかと思います。便りをつくる時にどちらが先かという話になってしまうので、今はどうしても伝えたいことを西砂元氣通信に書いて載せています。

(H委員) 私は2グループだったのですが、今リモート実施が多いのかと思っていたのですが、昭島市はそれが盛んで学生がたくさん参加をすることで、いろいろなグル

ープができていろいろな意見を聞くことができたと言っていました、それに対して国立市は、一貫して対面を大事にしてきたようで、一切リモートは行わないそうです。相反する意見のところと同じグループでおもしろかったです。

(会 長) 先ほどの便りの話も手法の話もそうですが、いろいろな市の方でグループを構成しているので、それぞれのお話を聞くことができましたね。

(H委員) 武蔵村山市の人は、立川市と大学の関わりが持ててうらやましいと言っていました。どこか連携できる場所を探して、市民大学を作りたいと言っていました。とても刺激になったようです。

(会 長) こちらの情報提供もよく伝わったということですね。ありがとうございます。

(C委員) 印象に残ったのが「あきしま会議」です。対面で始めたのがコロナ禍ではリモートになったそうです。子どもたちも巻き込んだり、会議をきっかけにサンバのパレードを行ったり、可能性の広がりを感じるお話をさせていただきました。中学生で参加した子供たちが高校生になって「未来守」という形で活動されているそうです。社会教育に限らず、いろいろな方に声をかけて、対話の場を作って活動につなげていくといった取り組みも素晴らしいと思いました。学芸大の学生さんが錦学習館の話をしてくださって、いろいろな方と交流できる楽しさを話していただいて、大学生との連携ができていいねと他市の方からは言われました。国立市は公民館がひとつしかなくて、事業はやっていないということでしたが、子ども達をどこかへ連れて行ったり、ボッチャの話もさせていただきました。それぞれの市の特徴が出て、いい話し合いになったと言っていて終わることができてよかったと思います。

(会 長) ありがとうございます。国立は公民館便りには力入れていますね。

(E委員) 私は6グループだったのですが、国立市と昭島市の方が委員になられたばかりでわからないことが多いみたいで、質問される場面が多かったです。その中でも「なぜ公民館を学習館にしたのか」ということで、私も詳しくはないのですが、社会教育法に縛られない自由な活動ができるのかそういった理由だったと思いますと伝えました。他市の方からすると公民館だったものが学習館になって、その学習館がそれぞれ地域学習館運営協議会を組織していることに興味を持たれたようでした。社会教育について質問するはずが、逆に質問されてしまいました。どのような活動をされているのか話を伺ったりして、社会教育委員活動についてイメージが深まりました。

(会 長) ありがとうございます。他市から立川市がどのように見えているかは普段気づかないという点では、質問をされると新しく気づくことはあるかもしれませんね。

(B委員) 3グループだったと思うのですが、立川市からは一人しかいなくて発表の時に抜けてしまったので、どのような話だったか分からないのですが、先ほどの「あきしま会議」や国分寺市の「わんぱく学校」という取り組みが紹介されていて、子ども達が行事や青少年育成ボランティアに関わる仕組みがあって驚きました。立川市の場合、子ども達を積極的に取り入れて事業を行うという考え方が少し不足しているのかと思いました。

(会 長) ありがとうございます。

(副会長) 私は1グループだったのですが、どのグループにもある「あきしま会議」に関心があったようで、立川市で行う場合、どのような形になるのかと思いました。地運協の代表が集まると公式感の強いものになってしまうので、学習館で活動しているいろいろな社会教育関係団体が集まる場のようなものを設定できると交流が生まれるのではないかと思います。

(会 長) 立川でやるといろいろな活動団体や組織があるので、実践についてもっと大規模に交流するようなことができるかもしれませんね。次の立川市の生涯学習の推進のヒントのようなものを得られるかもしれませんね。他に何かございますか。

(なし) 私たちにとっても長い時間かけて準備をして学びがありましたし、振り返ると情報交換できる機会があつてよかつたと思いました。12月10日に発表してくることになりますが何かこれだけは伝えてほしい内容などありますか。(なし) 10日はどなたかいらっしゃいますか。(なし)

(副会長) 私はいかなくても大丈夫ですか。

(事務局・管理係員) 枠は空いているので、ご参加いただけるのであればお願いします。

(会 長) 昭島で10日の午後に行います。各ブロック幹事市から報告があつて、その後公演があります。次第に記載してある協議事項は以上となりますが、そのほか何かある方いらっしゃいますか。

(B委員) 協議というほどのものではないのですが、高松学習館の運営協議会で、11月の10、11日に行われた関東甲信越静社会教育研究大会の山梨大会について、社会教育委員の参加名簿を見て、立川市は誰も参加していないというご指摘を受けました。オンライン参加も可能だったのに参加しなかったという自責の念も込めましてお話をさせていただきました。事務局からも我々に強くアピールしていただけるとこのような事態も防げるかもしれないのでよろしくお願いします。

(会 長) 東京で開催した時は一大イベントだったので、参加しようという気になったかもしれませんが、今年度は少し気を抜いてしまったかもしれませんね。

(B委員) 例えば会長が出席するときなどは交通費は出ないのですか。

(事務局・センター長) 事前に予算取りをしなくてははいけませんので、確保できるように努力します。現状はないです。

(会 長) 東京でやったり、事例発表者になったりするときは意識しないといけないので、予算を取っていただくとかはいいかもしれないですね。

(事務局・センター長) 場所によっては、庁用車で事務局が運転していくというのはできるかもしれません。来年度のこの時期に向けて考えてみます。

(会 長) みなさんにも案内のメールが届いていると思いますが、忙しくてスルーしてしまうこともあるかもしれませんので、この会議で話題に出していただいて、どなたか出席してこの会議でご報告いただくのを習慣づけるのもいいかもしれませんね。ご報告ありがとうございます。

#### 4. その他

##### (1) 真壁委員の退任について

- (会 長) 事務局より説明をお願いします。
- (事務局・管理係長) 眞壁委員が一身上の都合により、すでに退任されています。後任につきましては、近々の補充の予定はありませんが、地域バランスも考慮しながら検討をしていきたいと思えます。
- (会 長) 砂川エリアの委員さんがいなくなってしまうということですね。では、引き続きご検討をよろしくをお願いします。議題にはなっていないのですが、次回会議が空欄になっています。確認したいと思えますので事務局より説明をお願いします。
- (事務局・センター長) 次回は1月18日を予定しておりましたが、取り扱い議題が決まっていない状況です。最後の2月14日に向けては、第7次計画策定のスケジュール感をお示しできればと思えます。皆様から議題等のご提案がなければ次回1回お休みというのはどうかと思えますして空欄となっております。もしくは、会議前に会長にはご相談させていただきましたが、計画の中で歴史民俗資料館に関して記載がございます。1月18日でなくてもいいのですが、文化財の見学をしながら歴史に触れていただくというのはどうかという案もございまして、ご意見いただければと思えます。
- (会 長) 選択肢としては3つになるかと思えます。「やらない」、「議題を出して予定通り行う」、「歴史民俗資料館に見学に行く」。先方と約束を取り付けたわけではないので1月18日ではないかもしれません。スケジュールが変わる可能性もあります。どれも理由はあるので、ご意見をお聞かせいただければと思えます。
- (B委員) 以前、柴崎学習館と第一小学校を視察したり、幸児童館を見に行ったこともあります。ここから出て、見に行くというのはあってもいいかと思えます。個人的には歴史民俗資料館に行ったことがないというのもありますので。
- (会 長) 案3に一票ということですね。
- (C委員) 私も歴史民俗資料館に行ってみたいです。立川市史の編纂に入っていて砂川地区が今対象になっているので、調査員の方々とお話をさせていただいたのですが、砂川でどのような暮らしをしてきたかまでお調べになるということなので、歴史民俗資料館で関連性のある文化財についても理解を深められたらといいのではないかと思えます。
- (会 長) 私は行ったことないかもしれないのですが、学生が活動の関連でお話をお伺いしたことがあって、機織りのボランティアさんが有名で生涯学習的な意味で事例があるというのを聞いたことがありました。そういった生涯学習的な視点からも興味があるなという思いですが、案3にした場合、日程が代わってしまう可能性もあるので全員参加できないかもしれませんが、せっかくの機会なので歴史民俗資料館に行くという方向で調整いただくということをお願いします。
- (事務局・センター長) 第一候補は予定通りの日時で考えてみます。ただし、アクセスが不便になりますので、直接現地にいっただけの方は行っていただいて、難しい方はアィムに18時に集合するなど車を手配しますので、一度調整した結果をご報告いたします。
- (会 長) この形式で行うのは2月14日、その前に1月のどこかで見学会を行うという形で進めていきたいと思えます。

(副会長) 夜に行くのに学芸員の方が案内していただけるのですか。

(事務局・センター長) 夜でも問題ない確認はとれているのですが、正規職員で係長が一人おりますので調整いたします。

(会 長) ありがとうございます。会を終了する前に配布物がいくつかあります。幸学習館ですね、よろしくをお願いします。

(F 委員) 一つは防災講座で12月4日のチラシができましたので配布させていただきます。12月10日にはかわせみカフェがありますのでよろしくお願いします。

(会 長) ありがとうございます。高松のも紹介しておきますか。

(H 委員) 学生たちの準備が進んできていますので、書初めやだるま落としなど企画しています。学生さんたちからは夏のたかまつりから学んで限定20組で行う予定という話がありました。1月8日の朝からやりますのでお越しいただければと思います。

(会 長) 冬のたかまつりでしたか。書道の市民リーダーさんに来ていただいて書初めしたり、サークルさんにお手伝いしていただいてお手玉づくりをする予定です。職員さん、市民リーダーさん、地運協の委員さんたちが学生をバックアップして実施されますのでよろしくお願いします。錦学習館でも1月29日にプレ錦まつりを対面で企画しています。子どもも大人も楽しめるような中身になっていて、昔遊びもあったり、遊んでもらいながら楽しく学んでいただくという内容になっています。

(G 委員) 西砂学習館ではサマーイベントということで夏休みの火曜日は学習館に行こうということで毎週午前午後、食事つきで7年目を迎えました。もう少し活動を多様化したいということでウィンターイベントを企画しています。これは地運協だけの企画ではなくて、支える母体を広げていきたいということで館長さんと青少健のメンバー何人かと協議をしました。地域で子ども達を学ぶ・支える・育てるという活動に協力いただきたいということで快諾いただいています。メインは書初めで、学習館を利用している書道団体の方、7、8名が補助に入っていることになっています。もう一つは竹とんぼを作る予定で、食の提供もする予定です。がにがら田んぼで作ったお米をいただいて、おむすびにします。この次スプリングイベントなんかを考えたときに、子どもたちの居場所がどんどん広がっていくのはとてもありがたいことだと思います。また、支援してくれる団体が増えていくのも地域で子どもを育てるということにつながってくるだろうし、連携していく第一歩となるのがうれしく思います。

(会 長) 各学習館、地域活性化事業の枠で行われていると思いますので、お互いが見合おうと市全体の生涯学習活性化の素材になるかと思いますので、お時間のある方はご参加ください。他にございますか。(なし) それでは、第5回生涯学習推進審議会を終わりたいと思います。ありがとうございました。